

第9回 6大学共同開催フォーラム報告

2019年9月20日(金)、岩手大学総合教育研究棟 北桐ホールに「食の安全・安心」を教育研究の基盤とした全国6大学の研究センター(神戸大学 食の安全・安心科学センター、東京大学 食の安全研究センター、岩手大学 動物医学食品安全教育研究センター、大阪府立大学 食品安全科学研究センター、東北大学 食と農免疫国際教育研究センター(CFAI)、宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター)が一同に会し、第9回共同開催フォーラムが開催され、CFAIから北澤春樹副センター長、野地智法准教授、米山 裕教授が参加しました。

2000年以降、口蹄疫、高病原性インフルエンザ、ブタ流行性下痢等、重大な家畜伝染病が発生し、「食の安全・安心」に対する国民の関心が高まるようになってきた背景から、農学・獣医学を基盤とする国内の前記6大学において「食の安全・安心」にかかわる学術・教育面でのさまざまな取り組みが始まり、各大学の関係部署でセンターが立ち上がりました。2011年の第1回共同フォーラムが神戸大学と東京大学のセンター共催で開催されて以降、各センターが加わる形で共同フォーラム開催を重ね、今年のフォーラムでは宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンターが新たに加わって第9回共同フォーラムが開催されました。

来年(2020年)オリンピックが日本で開催されることから海外から多数の訪日客が訪れることが予想され、来訪者への安全な食品の供給が課題となっています。そこで今年の共同フォーラムは、食の安全性について家畜衛生法の観点から「オリンピックを見据えた家畜防疫と食品安全」をテーマとして、家畜防疫と食品安全の現状を知ることを目的とした講演がなされました。昨年9月に我が国で26年ぶりに豚コレラが確認され未だ収束していない状況であり、また、昨年8月に中国でアジア圏初のアフリカ豚コレラの発生が確認され流行地域の拡大が懸念されています。このような背景にあつて本シンポジウムではタイムリーに、これらの問題に関連して、農林水産省の専門家から動物検疫の状況について、また、農研機構動物衛生研究部門の専門家からアフリカ豚コレラの発生状況についての講演がありました。加えて、食品衛生法に基づくHACCP、そしてJGAPへの対応が求められている食品関連事業者の取り組みとして、畜産および酪農生産現場の具体的な取り組み状況の紹介がありました。講演後、パネルディスカッションによる公開討論会で活発な質疑応答がなされました。

次いで、主催者である6大学の各センターからの活動報告があり、CFAIからは、北澤春樹先生による「食と農免疫国際教育研究センター(CFAI)」の第一期(2015年4月~2020年3月)の活動報告と第二期(2020年4月~2025年3月)に向けた今後の活動方針の紹介がありました。講演終了後は講師の先生方と各センター関係者の情報交換会があり、今後のフォーラムのさらなる連携と活動の発展について議論がなされました。



東北大学 北澤春樹先生による
CFAIの活動報告



岩手大学 山本欣郎副学部長に
よるフォーラム開催の御挨拶



講師、各センター関係者を交えた
情報交換会の様子